

Kendai [秋田県立大学広報誌]

イスト

Akita Prefectural University

2015
VOL. 16



特集

卒業生・修了生インタビュー

Contents

- 01 News&Topics
- 03 卒業生・修了生インタビュー
- 09 図書館だより
- 10 瞬間風速

秋田県立大学の
1年を振り返る

NEWS & TOPICS

大潟キャンパス

「フィールド開放デー」が開催されました

6月28日に大潟キャンパスフィールド教育研究センターの一般公開イベント「フィールド開放デー」が開催されました。当日は晴天に恵まれ、青空の下では圃場見学バスツアーや短角牛肉の試食（バーベキュー）、羊やうさぎとのふれあい体験、ラップサイレージのお絵かき、トラクター乗車、金魚すくいなどが行われました。このほかにも「農業機械利用技術の最前線」と題した講演会と実演や、当センターで生産された野菜や花きの販売、研究成果のポスター展示など内容盛りだくさん。恒例となった秋田キャンパス竿燈会による演技、学生やサークルの模擬店は大好評で、小さな子どもからお年寄りまで、多くの笑顔が見られました。



コンビニエンスストア店舗の建設に技術提供を行いました

本荘キャンパス

木材高度加工研究所

—秋田スギを活用した木造コンビニエンスストア—

7月25日に、秋田スギを活用した木造コンビニエンスストアが開店しました。この店舗の建設にあたり、建築環境システム学科の板垣直行准教授が、木材高度加工研究所の岡崎泰男准教授らと共に秋田県産材を用いた梁の開発を行うなど、木構造や構法に関する技術の提供を行いました。

秋田県では、秋田県産の木材の利用の拡大につながる取組を推進しており、今回の取組は商業施設での木材活用の一環として、人の往来が多く展示効果の高いコンビニエンスストア店舗への県産材利用を図ることを目的としています。

【店舗概要】
店名：ファミリーマート秋田山王臨海町店
住所：秋田市山王臨海町4-28



子吉川レガッタ 2014 壮年女子の部で優勝!

本荘キャンパス

由利本荘市の市民ポート大会「子吉川レガッタ2014」が9月7日に開催され、本学から参加したチーム全てが準決勝以上に進み、壮年女子の部で優勝という好成績を収めました。

当日は快晴のなか、由利本荘市内の企業や地元の有志で構成されたチームなど総勢90以上のチームが出場し、熱戦が繰り広げられました。本学では、薫風・満天フィールド交流塾の一環として毎年出場していますが、今年は過去最多となる5チームがエントリーし、成年男子、成年女子、壮年男子、壮年女子の全部門に出場しました。そのうち学生で構成された2チームがエントリーした成年男子の部では、経営システム工学科チームが決勝まで進出し、建築環境システム学科チームも準決勝まで勝ち上がる大健闘を見せました。教職員で構成された成年女子、壮年男子の部でも同じく準決勝まで進出。そして壮年女子の部では初優勝を勝ち取る、過去最高の成績を残すことができました。



「学生ボランティア賞」を受賞!

本荘キャンパス

—ヒマラヤプロジェクト—

大学の学生団体ヒマラヤプロジェクトが、ソロプチミスト日本財団の「学生ボランティア賞」を受賞しました。

この賞は、学生ならではの視点でボランティア活動を継続的にを行い、誠実に責任を果たしている学生や学生団体に贈られるもので、ヒマラヤプロジェクトは13年間継続してネパールやモンゴルの人々のために、太陽光発電の照明システムなどを設置・保守してきたことが評価され、受賞が決定しました。

11月5日には神戸国際展示場で年次贈呈式が開催され、代表として電子情報システム学科3年の小野貴博さんが出席し、表彰を受けました。



井上助教のコメント

「大学から推薦を受けただけでも驚きでしたが、まさか賞を頂けるとは思っていなかったので、非常に光栄に思います。今日まで研究を続けてこられたのは多くの皆様のおかげです。感謝したいと思います。」

「女性研究者支援コンソーシアムあきた賞 (若手研究者部門)」を受賞

秋田キャンパス

—生物環境科学科—

平成26年度女性研究者支援コンソーシアムあきた男女共同参画推進シンポジウムが11月28日に開催され、生物環境科学科の井上みずき助教が女性研究者支援コンソーシアムあきた賞(若手研究者部門)を受賞しました。

女性研究者研究活動支援事業の一環として、コンソーシアムあきたを構成する各機関の女性研究者の優れた成果・取組を顕彰するこの賞は、今年度より創設されました。

井上助教は、なぜ植物が種子以外にクローンもつくる形質を進化させたのかを明らかにする研究を行っており、今回「有性繁殖とクローン繁殖に着目したクローナル植物の生活史戦略の解明」という研究テーマで受賞しました。

秋田臨港警察署一日署長を委嘱されました

秋田キャンパス

年末年始の事件・事故防止を呼びかける年末年始特別警戒出動式が12月1日に秋田市の秋田臨港警察署で行われ、生物生産科学科4年の工藤育美さんが一日警察署長を委嘱されました。

秋田臨港警察署の平間署長から委嘱状を手渡された工藤さんは、「平穏な毎日警察署の皆さまのおかげで保たれており、日頃の活動に感謝しています。犯罪を一件でも多く抑止するためには地域の皆さまの協力が不可欠。地域の方と一人でも多く接し、呼びかけをしたい」と抱負を述べました。



出動式では工藤さんの号令で警察車両が市内へパトロールに向かいました。出動式終了後は、市内のスーパーで来店した方へ特殊詐欺防止のチラシを直接配り防止を呼びかけたほか、最後は大学に戻り護身術講座の講師として、参加した約30名の学生・教職員にいざというときの身の守り方を指導しました。



秋田キャンパス

地域連携・研究推進センター棟が完成しました

—研究・地域貢献本部—

秋田県立大学では、大学と地域の方々との連携や研究活動を推進するため、地域連携・研究推進センターを設置しています。このほど、秋田キャンパス管理棟に隣接した「地域連携・研究推進センター棟」が完成し1月15日に開所式を行いました。

今後、大学の「知(研究シーズ)」を積極的に企業や県民の皆さま等に提供することで、地域や産業の振興に一層貢献していきたいと考えております。



大学生活で一番印象に残っていることは？

モータースポーツ活動が一番印象に残っています。小学生の頃から続けている活動でしたが、大学入学を機に活動休止していました。そんな中、2年生の時に友人らと同好会を設立し、秋田で一から活動を再開しました。FM秋田などのメディアに取り上げて頂いたことが後押しし、多くの大会に参加することができました。仲間や秋田の方々の応援は結果を残せたこと以上に胸が熱くなるものでした。

県立大の良いところは？

基礎科目のサポートが充実しているところです。私は工業高校出身なこともあり、普通科を卒業してきた人とは、高校のカリキュラム的にどうしても数学や物理で差が生じてしまっていました。その差を縮めるための基礎講座やチューター制度は本当に助かりました。

卒業後の目標をお聞かせください。

モータースポーツで自動車業界を元気にしたいというのが仕事をやる上での目標です。今年からHondaはF1にエンジン供給という形で参戦します。F1のように世界を相手に仕事をするという事は、語学はもちろんですが、より深い知識や柔軟な発想が必要です。そんな挑戦する志を持ち続けられるような技術者でありたいと思います。

◎就職内定先 本田技研工業株式会社

内定先企業の紹介と志望動機

自動車、バイク、航空機、汎用製品の製造および販売をグローバルに行うメーカーです。また、今年より「パワーユニットサプライヤー」として、再びF1に参戦します。独自路線を貫き、研究者のこだわりが最大限発揮できる環境であることに共感し、Hondaで私も働きたいと思いました。

機械知能システム学科

Tensho Kobayashi

小林 天翔

- 出身県：栃木県
- 出身高校：宇都宮工業高等学校

電子情報システム学科

Kento Kobayashi

小林 健人

- 出身県：秋田県
- 出身高校：横手清陵学院高等学校



◎就職内定先 ADK富士システム株式会社

内定先企業の紹介と志望動機

秋田市を拠点に、システム開発などを行う企業です。制御分野をはじめ、多くの分野・業種のシステムを扱っており、最近は、職場環境の監視・測定を行うシステムの開発も行っています。大学で培った能力を活かして秋田に貢献したいという考えから志望しました。

大学生活で一番印象に残っていることは？

「自由に使える時間が多い」ということです。そのため、興味を持ったことを自分で勉強する時間も多くなりました。私の場合は、Javaのプログラミングに憧れがあったので、時間を見つけては趣味としてプログラミングの勉強をしていました。

県立大の良いところは？

教員との距離が近いところだと思います。少数教育のため、ゼミでは発言の機会が多く与えられます。そのため、先生から直接指導を受ける機会が多くなり、やや難しい専門の内容も理解しやすくなります。これは、他の規模の大きな大学にはないメリットだと思います。

卒業後の目標をお聞かせください。

一人前のシステムエンジニアになるには、技術的な知識も必要ですが、人間性も大事だと考えています。新しく学ばなければならないことが山のようにありますが、焦らず一つ一つ自分のものにしていきたいと考えています。



卒業論文は、どのようなテーマに取り組みましたか？

コンクリートの放湿挙動について研究しました。近年では、自然災害による住宅の浸水被害が地域で拡大しています。床下が一度浸水すると、水がなくなった後もコンクリートが吸収した水分が乾燥時に放湿され、湿気により人的被害に及ぶ可能性も高まります。そこで実験的研究によりコンクリートの放湿挙動を把握し、温度環境による違いが表れるかを検証しました。

大学生活で一番印象に残っていることは？

サークル活動、就職活動、研究と印象に残っているものはいくつかありますが…それよりも他愛のない話で盛りあがったり、たくさん笑わせてもらったりと、友達と過ごした特別じゃない毎日が印象深かったなあと思います。周りの人たちのおかげで楽しく過ごすことができました。

卒業後の目標をお聞かせください。

入社後は幅広い年代、職種の人たちと関わっていくことになるので、周りの変化に柔軟に対応しながらも、芯がブレない人でいたい。そのために、わからないことは質問したり、調べたりと多くのことを吸収したいです。また、その中でも周りの人への感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。

経営システム工学科

Daiki Ito

伊藤 大輝

- 出身県：秋田県
- 出身高校：大曲高等学校



◎就職内定先

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社

内定先企業の紹介と志望動機

三菱UFJフィナンシャル・グループ傘下にある銀行系証券です。グループ全体で国内拠点網に個人4000万口座・法人50万社の国内顧客基盤を有し、質の高い金融サービスおよび商品を提供しています。この会社で金融の知識を身につけ、グローバルな人材になりたいと考えて志望しました。

◎就職内定先 清水建設株式会社

内定先企業の紹介と志望動機

建築では医療機関や伝統建築を得意とし、環境問題にいち早く取り組み、社会に貢献できる環境づくりを目指しているゼネコンです。「誠実により良いものをつくる」というシシスの原点に共感し、「子どもたちに誇れること」とを、責任ある仕事を全うしたいと思いました。

建築環境システム学科

Haruna Taguchi

田口 陽菜

- 出身県：秋田県
- 出身高校：横手清陵学院高等学校



卒業論文は、どのようなテーマに取り組みましたか？

会計基準の変更が日本企業に及ぼす影響を解析しました。現在日本では会計基準が乱立しており、それぞれの基準による差異が問題となっています。そのため、国際的な統一会計基準が求められています。現行の日本基準から国際基準に変更した際のインパクトを株価と無形資産の指標を用いて検証・解析を行いました。

大学生活で一番印象に残っていることは？

友達と行った貧乏旅行です。大学の夏休みはほぼ2ヶ月間あり、大学生活を充実させる為にも重要な期間になります。毎年男4人で車1台に乗り込み、様々な都道府県に行きました。今日する事はその場で決め、気の向くままに旅をする。お金は無くても現地でお金を出した人と触れ合い笑った記憶は、大変いい経験になりました。

卒業後の目標をお聞かせください。

今後の目標は挑戦と謙虚さです。社会人1年目としての謙虚さを持ちながらも、臆することなく幅広い分野に挑戦をしていきたいです。また、金融を通して企業と資本市場の発展を支援する存在へと自分を高めたいと思います。そのために多くのお客様と関わり、じっくりと仕事を習得し自己研鑽に努め、将来は国内外で働きたいと考えています。

🍷 大学生活で一番印象に残っていることは？

タイに短期留学したことです。自分の英会話能力の低さを痛感したと同時に、自分がどれほど恵まれた環境にいるのかが感じることができました。また、今でも留学で知り合った友人と交流が続いており、素敵な出会いを与えていただきました。

🍷 県立大の良いところは？

少人数教育であるため、教員一人に対する学生の人数が少ないところです。教員と接する機会が多く、コミュニケーションがとりやすいと感じています。また、学生自主研究も魅力的だと思います。1年次から自分の興味がある物事について研究できる環境は、非常に恵まれていると思います。

🍷 卒業後の目標をお聞かせください。

病気で苦しんでいる方々の負担を少しでも軽減し、患者様の笑顔が見られるよう医療関係者の方々と信頼関係を築き、病気で苦しんでいる方々の手助けをしたいと考えています。また、人柄を買ってもらえるようなMRになりたいと思っています。

生物生産科学科

Kaho Ogawa

小川 夏穂

- 出身県：秋田県
- 出身高校：本荘高等学校



◎就職内定先 株式会社秋田銀行

内定先企業の紹介と志望動機

地域共栄を経営理念にもち、地域のお客様をとっても大切にしている会社です。実家が農業を営んでいることもあり、秋田を支える主要産業である農業を成長産業として注目し、地域発展を目指す銀行として、様々な面からサポートしている点に共感し、秋田県のために働き、恩返しをしたいと思い志望しました。

◎就職内定先 あすか製薬株式会社

内定先企業の紹介と志望動機

ホルモン製剤を軸に内科、産婦人科、泌尿器科の領域を重点領域として製品展開を行っており、特に産婦人科領域に力を入れています。女性のライフステージに合わせた製品の提供ができる点に魅力を感じ、自身が服用している薬も扱っているため、自分が貢献できる部分が大いと思い、志望しました。



応用生物科学科

Aiko Sato

佐藤 愛子

- 出身県：秋田県
- 出身高校：聖霊女子短期大学付属高等学校



🍷 卒業論文は、どのようなテーマに取り組みましたか？

シロイヌナズナというアブラナ科植物の、カドミウムに耐性を持っている突然変異体を用いて、カドミウム耐性の解析をテーマに研究しました。数種類の系統で生長の違いを比較したり、長期間に渡って生長の様子を観察したりと、様々な条件で生育を行い研究を進めました。

🍷 大学生活で一番印象に残っていることは？

生物生産科学実習です。野菜を種から育てたり田植えや稲刈りを行ったりと、様々な農作業を行いました。炎天下での作業や力仕事など辛いこともありましたが、みんなで力を合わせ励まし合い、おいしい作物を作ることが出来ました。このことから、仲間と協力することの大切さを改めて学びました。

🍷 卒業後の目標をお聞かせください。

窓口業務では、金融の話に関わらず日常の会話などお客様とのコミュニケーションを大切に、いつも気軽に足を運んでいただけるような店舗作りを力をつけたいです。そして、私だから相談したいと思ってもらえるような、親しみのある銀行員になりたいと思います。

卒業論文は、どのようなテーマに取り組みましたか？

「高濃度酸素溶解水の供給が豊川の河川水質に及ぼす影響」というテーマに取り組みました。八郎湖流入河川である豊川を対象に行われている水質改善の取り組みによる効果を検討するために、水質項目の測定を行いました。

大学生活で一番印象に残っていることは？

竿燈のサークルで秋田竿燈まつりに出場したことです。特に学生代表をさせて頂いた3年生の時のまつりで、妙技大会に出場したことや、夜の竿燈演技でとても盛り上がり、夜遅くまで反省会をしたことです。今までの人生で一番充実した時間を過ごすことが出来ました。

卒業後の目標をお聞かせください。

生物に関する知識を身につけて、その道のエキスパートになりたいと思っています。いずれはボランティア活動等を通じて、たくさんの人に生物と触れ合う機会を作っていく一員になっていきたいです。

◎就職内定先 イカリ消毒株式会社

内定先企業の紹介と志望動機

総合衛生管理という食品の衛生管理や害虫駆除を主な業務として行っている会社です。採用されたのは技術営業職という、営業だけでなく調査や企画提案、防除業務も行う仕事です。私は室内にこもるよりも外に出て人と関わる仕事がしたかったのと、虫や鳥などの生物にとっても関心があったためこの職業を志望しました。



生物環境科学科

Gento Otake

大竹 玄人

●出身県：栃木県
●出身高校：宇都宮北高等学校



アグリビジネス学科

Motonori Sasaki

佐々木 基登

●出身県：秋田県
●出身高校：金足農業高等学校



◎就職内定先 秋田おばこ農業協同組合

内定先企業の紹介と志望動機

2市1町およそ15万人の住民が生活する地域を管轄する、県内初の広域JAです。「生まれ育った秋田県で、地域に密着した仕事をしたい!」というのが一番大きな理由です。営農指導、金融、共済、購買、福祉など総合事業を展開しており、多方面から地域を支えているところにも魅力を感じました。

卒業論文は、どのようなテーマに取り組みましたか？

「秋播き緑肥作物の植栽・すき込みが雑草の発生ならびに後作ダイズの生育・収量に及ぼす影響」というテーマに取り組みました。コムギとオオムギの緑肥効果の比較を主眼とし、冬雑草と夏雑草を抑制する効果、ならびに後作ダイズの生育・収量に及ぼす効果を検討することで、化学肥料や農業の使用を抑えた持続的な農業に貢献する知見を得ようとしています。

◎県立大の良いところは？

広大で充実した研究圏場があり、その中で研究ができることです。私が所属する大規模農業経営プロジェクトでは、3年次から実践的な生産活動を学び、4年次からは土地利用型農業の発展につながる新たな知識や技術を見いだす研究を行います。大規模農業の先進地である大潟村をフィールドに学ぶことができるのは県立大ならではの魅力です。

◎卒業後の目標をお聞かせください。

JA秋田おばこで農業のプロフェッショナルになることです。近年は異常気象が異常ではなく当たり前のようになっており、それらは農業経営に影響を与えてしまいます。日々の業務で経験を積み、組合員の方々が困ったときに、「佐々木さんがいれば大丈夫だ」と頼っていただけのような存在になりたいと考えています。

共同ライフサイクルデザイン工学専攻

Ryota Kikuchi

菊池 遼太

- 出身県：岩手県
- 出身高校：水沢高等学校



◎就職内定先 **株式会社秋田新電元**

内定先企業の紹介と志望動機

省エネルギー化のキーテクノロジーであるといわれる、ダイオードやサイリスタなどのパワー半導体を製造している電子デバイスメーカーです。「エネルギーの変換効率を極限まで追求することにより、人類と社会に貢献する」という企業ミッションに共感し、高い技術力や環境管理に注力している点に魅力を感じ志望しました。

大学院に進学した理由は？

学部3年時に上海理工大学へ短期留学し、自分が学んできたことの狭さにショックを受けたのがきっかけです。現地の講義や研究、企業を訪問し、学生や教員との交流から、一つの場所に囚われずに世界で活躍できるエンジニアになりたいと自分の将来像を明確に考えるようになりました。そこで、研究する期間が長く、国内外の学会活動に触れて高度な専門知識を身に付けることができる大学院への進学を決意しました。

6年間で一番印象に残っていることは？

国際交流サークルでの活動です。留学生と言葉の壁を越えて意見を出し合い、協力し合いながら田植え・稲刈り体験、ダンス競技会など様々な地域ボランティアに参加し、交流を深めました。リーダーとして、至らない部分が多々ありましたが、温かいメンバーのお陰でどの活動も、より有意義なものにすることができました。中でも潮風祭で手作り餃子の模擬店を出店したのが印象深いです。

大学院進学を考えている人へメッセージ

短いようで長いです(密度が濃い)。また、学部時代よりも成長の幅が大きいと感じます。私は人前で発表するのに苦手意識がありましたが、講義でのプレゼン、研究での学会活動に多々参加させて頂き、自分でも「変わったな」と思います(笑)。大学院では、ただ講義を聞く、ただ研究するだけでなく、色々なことにアンテナを向けてほしいです。

◎就職内定先 **株式会社ブリヂストン**

内定先企業の紹介と志望動機

タイヤの開発・製造・販売をグローバルに行う世界シェアNo.1の企業です。建設・鉱山車両やボーイング787などの航空機にも使用され、近年では防震ゴムやスポーツ用品などにも力を入れております。はがき1枚分で乗り物の性能を支えるタイヤの高度な技術に興味を持ったこと、女性エンジニアの働く環境が整っているところに魅力を感じました。



大学院では、どんな研究に取り組みましたか？

廃電子基板からの金属のリサイクルに関する研究を行いました。都市で大量に廃棄される家電製品や電子機器には金や銀などの有用金属が含まれており、都市鉱山と呼ばれています。私は、粉碎・選別・バイオリッチングを行った残渣から、化学浸出や活性炭吸着法等を用いて金属資源を効率的に回収するためのプロセスの検討を目的とした研究に取り組みました。

大学院に進学した理由は？

学部生時に自分はまだまだ未熟だと感じていたため、自身の向上という目的で大学院に進学しました。結果として、研究に取り組むうえでより専門的な知識が身についたことはもちろんですが、目的を達成するために自分で考えて行動すること、様々な知識・価値観をもった方たちと議論すること、後輩の指導など、多くの経験をする中で、自分を成長させてくれた大きな2年間であったと感じています。

大学院進学を考えている人へメッセージ

周りの人たちが就職をして社会に出ていく中で進学という選択をすることに対し不安に感じることもあると思います。周りとう違う選択をすることは勇気がいることですが、その分魅力的な人間に成長できるはずですよ。私は今になって考えると大学院進学という道を選択したことで自分のプラスになったと感じることは多くありますが、マイナスは思い浮かびません。何事も経験してみることを強くお勧めします。

機械知能システム学専攻

Maki Sato

佐藤 真紀

- 出身県：秋田県
- 出身高校：明桜高等学校



生物資源科学専攻

Satomi Shimizu

清水 理未

- 出身県：北海道
- 出身高校：小樽潮陵高等学校

🍷 大学院では、どんな研究に取り組みましたか？

秋田県の八郎湖という湖沿で、散布体バンクからの沈水植物の発芽・再生に関する研究を行いました。散布体バンクとは土壌に含まれている植物の種子などの集団で、これを撒き出すことで沈水植物の発芽・再生が見込まれます。しかし、八郎湖において散布体バンクを用いた沈水植物の再生に与える光条件はまだ詳しく分かっておらず、現場と本学圏場内の水槽を使って光条件の影響を調査しました。

🍷 県立大の良いところは？

設備が充実しているところです。県立大学は新しい分析機器等が多くあるため、常に最新の研究が行えることはとても良い点だと思います。さらに、先生に対して学生が少ないので、先生たちとの距離が近くいろいろな相談などもできますし、研究室に入れば研究について熱いディスカッションが可能なことも良いところの1つだと思います。

🍷 大学院進学を考えている人へメッセージ

大学院は学部時代よりも研究を深めていくわけですから、その分だけ勉強しなければなりません。しかし、それだけのめり込めば自分の研究の位置付けがわかるようになりますし、その研究の面白さが一層理解できるようになります。今の研究を続けたいと思い、進学を考えている方もいると思いますが、きっと研究がより楽しくなると思います。

◎就職内定先 秋田県庁(農学一般)

内定先企業の紹介と志望動機

秋田県の農業行政施策の企画立案や、生産者・農業団体などに対する技術や経営の指導業務、優良新品種の開発などを行う試験研究業務を行います。秋田県の農業における環境保全型農業の推進に携わることによって秋田県の発展に貢献したいと思い志望しました。

◎就職内定先 日本ミクニヤ株式会社

内定先企業の紹介と志望動機

日本ミクニヤは環境コンサルタント業を行う会社で、防災や環境リスクコンサルティングを行っています。私は大学の講義で自然環境について学び、環境保全や環境修復に興味を持つようになりました。自身の研究でも沈水植物の再生に関する研究を行っているため、自分のスキルを生かせると考え志望しました。

生物資源科学専攻

Osamu Kato

加藤 理

- 出身県：秋田県
- 出身高校：秋田中央高等学校

🍷 大学院では、どんな研究に取り組みましたか？

植物の放出する香り成分の誘導と代謝について取り組みました。植物は昆虫の攻撃のような刺激を受けるとさまざまな匂いを放出する特徴を持ちますが、それらの匂いがどのように作り出されるかについては詳しく明らかにされていません。そこで、私は、植物が香り成分を作り出す仕組みの解明に取り組みました。

🍷 今後の目標は？

農業の現場を知り、秋田県の発展を農業から支えるために、どのような課題に取り組む必要があるのかを考え、行動できる人になりたいと考えています。そのためには、とにかく、農業の現場について知らなくてはならないと強く感じています。まだまだ知らないことやできないことがばかりなので、常に学び続けたいです。

🍷 大学院進学を考えている人へメッセージ

覚悟して進学して欲しいと思います。私にとって2年間の大学院生活は決して楽ではありませんでした。厳しい毎日をごちそうだったので、こぞ多くを得たと感じます。辛くても自分の研究を究めたいと努力すれば自分自身の成長に繋がるでしょうし、周りの人もその誠意にきっと応えてくれます。修士課程の2年間は想像する以上であつと言う間です、悔いなく過ごして下さい。

研究・調査に役立つ
データベースあります！

科学データの
収集なら

文献の
情報収集なら

「Scopus(スコパス)」

世界最大級の抄録・引用文献データベース。科学技術に関する膨大な文献情報を検索できます。卒論で研究テーマの情報を得るのに便利です！



「理科年表プレミアム」

理科年表の創刊(大正14年)から最新年度版までのデータを利用できます。検索した表データは、テキストデータ(CSV形式)でダウンロードすることが可能です。



国内の文献
検索なら

「日経テレコン」

〔図書館職員が代行で検索します〕

各種新聞雑誌記事の全文データベース。日経四紙・主要全国紙のほか、地方新聞、業界新聞の記事検索が可能です。お申し込みは図書館カウンターまで。

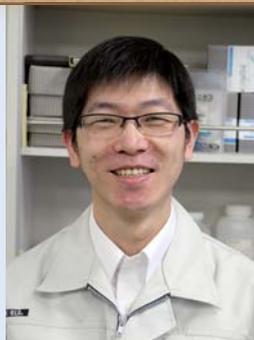


「CiNii(サイニイ)」

論文や図書・雑誌などの学術情報を検索できるデータベース。本学は機関定額制の契約をしているため、学内のパソコンからは有料コンテンツの一部を無料で閲覧できます！



図書・情報センターのホームページには、この他にも
たくさんのデータベースが掲載されています！ぜひご利用ください。



機械知能システム学科
施 建 助教

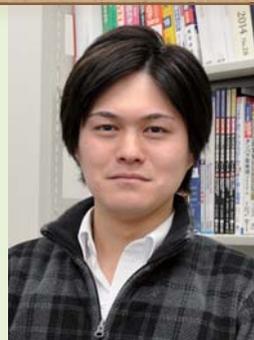
千里の行も足下に始まる

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。4月になり、草木が芽吹く春を迎えたとき、皆さんはきっと新しい目標のもと、新しい人生の旅を始めているのでしょう。

さて、皆さんは「千里の行も足下に始まる」という言葉をご存知でしょうか？これは遠い旅路も足もとの第一歩を踏み出すことから始まるということで、どんな遠大な事業も手近なところから始まるというたとえです。

私は中国の蘇州大学を卒業した後に、日本への留学、研究に専念し博士後期課程に進学、さらに研究を深めるため大学に就職しました。それら一連のスタート地点において、まずは手近なところから力を入れました。たとえば、日頃から中国の言葉や文化と関連がある日本語・日本文化を学んだり、同じ研究室の日本人とのコミュニケーションをとったりすることを心がけましたし、研究においても、正確なデータを得られるよう何度も繰り返し実験に取り組むことや、相手に伝わるパワーポイントのスキルとプレゼンテーション力を磨くことなどに努めました。そして今は大学の教育・研究・地域の貢献を新たな目標とし、頑張っています。

皆さんは今、これから始まる新しい生活への期待や希望に満ち溢れ、長い人生の旅を始めるところです。ぜひ「千里の行も足下に始まる」という言葉のもと、手近なところから頑張っていたいだきたいと思います。



応用生物科学科
牟田口 祐太 助教

多くの人に支えられている新生活

春は進学や就職、それに伴う転居など、新生活を迎える人が多い季節です。私も昨年4月から秋田県立大学の助教に着任し、新生活をスタートしました。そして、改めてこの一年を振り返ると、とても多くの人々に助けられた一年だったと感じています。

仕事に関しては、教職員として初めての年ということもあり、多くの先輩の先生方が気に掛けて下さり、沢山のアドバイス・サポートを賜りました。事務仕事についても不慣れな事が多く、関係者の方々に大変お世話になりました。また、私はこれまで西日本での生活しか経験がなかったため、気候が全く異なる秋田での生活に際して、プライベートな面でも、研究室の先生方を始めとして、多くの秋田県立大学の皆様にお力添えを頂きました。

加えて、新生活というのは、新たな環境で出会う人々だけでなく、その前にいた環境の人々にも支えられているのだと痛感しました。私が以前所属していた大学の恩師は、私を心配して頻繁に連絡を下さいました。また、前所属機関での研究成果をまとめる仕事に関しても、多大な御教授を賜りました。

このように、新生活というのは、その前後の環境に関わる多くの人々に支えられて始まります。それらの人々への感謝の気持ちを忘れないことが、充実した新生活を送るためのコツかも知れません。私自身も、これまでの恩を少しでもお返しできるように、新年度に臨みたいと思います。



NEWS & TOPICS

★Kendai

Isuna Vol.16



木造公共建築物で
林業再生を目指して

木材高度加工研究所

10月16日に本学の木材高度加工研究所で国内最大サイズのCLT*の強度試験が行われました。

中大規模木造建築用の新構造材料として注目を集めているCLT。欧米ではビルやマンションなどの壁や床材として利用されていますが、日本では全く新しい材料のため、CLT工法の構造設計基準がまだ確立されていません。このため農林水産省は平成28年度中に住宅メーカーや建築会社が使用可能となるように、国土交通省と協力して、基準策定に向けた強度データを収集しています。今回の公開強度実験はその一環として行われたもので、実験には行政や木材関連企業の担当者などが多数集まり、CLTに対する注目度の高さが伺えました。

※直交集成板：クロス・ラミネイテッド・ティンバー

木材高度加工研究所
林 知行 所長のコメント

「秋田はスギ資源が豊富であり、集材工場も多くあるので、全国的に考えてもCLTの生産拠点としての優位性があります。今後も研究を通じてCLT製造に参入する県内企業に対して協力していきたいと思います。」

学長と学生の懇談会を
開催しました!

秋田キャンパス
本荘キャンパス

1月26日、29日に、秋田キャンパスと本荘キャンパスで学長と学生の懇談会を開催しました。これは学生の生の声を大学運営に反映させるため、毎年数回開催されているもので、今回も2キャンパスあわせて13名の学生が参加しました。

「海外でも活躍できる人材養成に向けた語学教育などの在り方について」をテーマとした今回はまずはじめに、学長からTOEICへの取り組みに対する大学の方針についての説明が行われました。また、大学で実施している国際交流プログラムの参加者からは、もっと学内に還元する仕組みがあった方がよいという意見が出されました。

この他にも、キャンパス間の交流をもっと積極的にできるようにするため、大学からの支援を求める要望も出されるなど、自由で忌憚のない意見交換が行われました。



Kendai [秋田県立大学広報誌]

イスタ
Akita Prefectural University

「イスタ」は、秋田弁で「良いですね」と言う意味。
人材育成・研究開発を通して、地域社会の発展のために「良い」ことを発信
していきたいという願いを込めています。これからも応援よろしくお願ひします。

Akita Prefectural University
秋田県立大学
http://www.akita-pu.ac.jp/
E-mail:koho_akita@akita-pu.ac.jp
twitter:@Akita_P_U

秋田キャンパス ◆本部◆生物資源科学部◆大学院/生物資源科学研究科
〒010-0195 秋田県秋田市下新城中野字街道端西241-438 TEL.018-872-1500 FAX.018-872-1670
本荘キャンパス ◆システム科学技術学部◆大学院/システム科学技術研究科
〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4 TEL.0184-27-2000 FAX.0184-27-2180
大湯キャンパス ◆生物資源科学部(アグリビジネス学科3・4年次)
〒010-0444 秋田県南秋田郡大湯村字南2-2 TEL.0185-45-2026 FAX.0185-45-2377
木材高度加工研究所
〒016-0876 秋田県能代市字海詠坂11-1 TEL.0185-52-6900 FAX.0185-52-6924